

科目名	成人急性期看護学演習Ⅲ Acute Care Adult Nursing SeminarⅢ		担当教員 (研究室番号)	玉田 章 (307) 脇坂 浩 (306) 関根 由紀 (504)		教員への連絡方法 (メールアドレス)	玉田:akira.tamada@mcn.ac.jp 脇坂:hiroshi.wakisaka@mcn.ac.jp 関根:yuki.sekine@mcn.ac.jp						
履修年次	1年次 後期	科目区分	専門科目		選択区分	コース 必修	単位数 (時間)	2(30)		授業形態	演習	科目等履修生	否
科目目的	高度な管理を必要とする治療とその具体的援助について理解し、高度な看護実践能力の育成につなげる。												
ディプロマ・ポリシー (DP)	主要なDP	3. 地域の特性や変化する社会のニーズを的確に捉え、看護学教育および実践看護学に関する課題を追及していける研究能力を身につけている。											
	関連するDP	1. 多様化・複雑化・高度化する看護ニーズを的確に捉え、看護の特定領域における高度な看護実践能力や総合的な調整能力を身につけている。											
到達目標	1. 侵襲の大きい治療や外因性疾患による問題とその具体的援助について理解することができる。 2. 侵襲の大きい手術が行われた術後の患者の状態を再現し、観察技術や看護援助のあり方を検討することができる。 3. 生命の危機的状況に患者とその家族の看護援助における多職種連携のあり方と看護の役割を理解することができる。 4. 急性期医療に関連した手術部位感染の予防と薬剤耐性対策について理解することができる。												
成績評価方法 (基準)	プレゼンテーション (60%)、レポート (40%)												
教科書	特に指定しない。												
参考書等	必要時に提示する。												
受講者へのメッセージ													
備考	課題については、説明資料として作成し提出すること。これをレポートとして評価する。												
回	学習項目			学習内容				主担当 教員	授業 方法				
1回	術後無気肺予防の看護			術後無気肺予防についてプレゼンテーションを行い、その看護について検討する。 (次回課題: on- pumpでの開心術術後の問題と看護)				玉田	演習				
2回	侵襲の大きい治療を受ける患者看護① 人工心肺を用いた開心術術後の問題と看護			課題としたon- pumpでの開心術術後の問題について発表し、その看護について検討する。 (次回課題: 大動脈バルーンパンピング実施患者の問題と看護)				関根	演習				
3回	侵襲の大きい治療を受ける患者看護② 大動脈バルーンパンピング実施患者の問題と看護			課題とした開心術後に大動脈バルーンパンピングを実施している患者の問題について発表し、その看護について検討する。 (次回課題: 人工呼吸器装着患者の問題と看護)				関根	演習				
4回	侵襲の大きい治療を受ける患者看護③ 人工呼吸器装着患者の問題と看護			課題とした人工呼吸器装着患者の問題について発表し、その看護について検討する。 (次回課題: 血液浄化療法と看護)				玉田	演習				
5回	侵襲の大きい治療を受ける患者看護④ 血液浄化療法と看護			課題とした血液浄化療法について発表し、その看護について検討する。 (次回課題: 重症熱傷患者への治療と看護)				玉田	演習				
6回	外因性疾患患者の看護① 重症熱傷患者の援助方法			課題とした重症熱傷患者への治療や問題について発表し、その看護について検討する。 (次回課題: 外傷患者への治療と看護)				脇坂	演習				
7回	外因性疾患患者の看護② 外傷患者への治療と看護			課題とした外傷患者への治療や問題について発表し、その看護について検討する。 (次回課題: せん妄予防に関する文献検討)				脇坂	演習				
8回	せん妄のアセスメントと看護①			術後などに発症するせん妄の判断と看護援助を具体的に検討する。				脇坂	演習				
9回	せん妄のアセスメントと看護②			術後などに発症するせん妄の判断と看護援助を具体的に検討する。(次回課題: 人工呼吸管理を受ける患者の体験と看護)				脇坂	演習				
10回	クリティカルケア看護援助①			CCUにおいて人工呼吸管理を受ける患者の体験を知り、看護について検討する。 (次回課題: 集中治療室における患者の体験と看護)				関根	演習				
11回	クリティカルケア看護援助②			集中治療室で治療を受ける患者および家族の体験を知り、看護について検討する。 (次回課題: 生命の危機的状態にある患者看護における多職種連携の実際と意義のプレゼンテーション準備)				関根	演習				
12回	クリティカルケアの場におけるチーム医療①			生命の危機的状態にある患者看護における多職種連携の実際と意義について文献や資料を用いてプレゼンテーションを行い看護の役割について検討する。 (次回課題: 生命の危機的状態にある患者の家族看護における多職種連携の実際と意義のプレゼンテーション準備)				玉田	演習				
13回	クリティカルケアの場におけるチーム医療②			生命の危機的状態にある患者の家族への看護における多職種連携の実際について文献や資料を用いてプレゼンテーションを行い看護の役割について検討する。				玉田	演習				
14回	周術期に関連した感染予防について			CDC (米国疾病管理予防センター)「手術部位感染の予防のためのガイドライン, 2017」が示す手術部位感染の予防方法を詳読し、その具体的方法を検討する。				脇坂	演習				
15回	急性期医療に関連した薬剤耐性対策について			厚生労働省の薬剤耐性 (AMR) 対策アクションプランを詳読し、急性期医療における薬剤耐性対策を検討する。				脇坂	演習				